

体 験 授 業

平成29年8月6日(日)



**大学の講義を体験できるチャンス！
ぜひ聴いてみてください。**

跡見学園女子大学

文学部

人文学科 10:55~11:40 2号館4階M2401教室	光源氏ってどんな人？教授 植田 恭代 『源氏物語』を読んだことはなくても、「光源氏」という名前なら知っているという人は多いでしょう。なんとなく抱く光源氏のイメージがあるのかもしれませんが。それでは、原典の世界ではどのような人として描かれているのでしょうか。冒頭の桐壺巻を中心に、ご一緒に考えてまいりましょう。
人文学科 11:50~12:35 2号館5階M2502教室	国際社会に目を見開こう教授 笹島 雅彦 私自身の専門分野(国際関係論、アメリカ研究、安全保障など)と、これまでの研究内容、社会的活動内容、ジャーナリストとしての活動内容などを中心とする自己紹介(20分間)と、授業やゼミの活動内容を紹介する(25分間)という2本立てにする。ゼミ活動の紹介では、ゼミ生とのライブ・トークを行う。国際関係を学ぶ楽しさや、それが就活でどのように役立ったかなどについて、体験談を元に、ゼミ生がその魅力を語っていく。
人文学科 12:45~13:30 2号館5階M2508教室	18歳のレオナルド・ダ・ヴィンチ教授 篠塚二三男 レオナルド・ダ・ヴィンチの名前を知らない人はほとんどいないでしょう。「モナ・リザ」や「最後の晩餐」を描いた画家として、また解剖や工学などに通じた万能の人として有名ですが、今回は18歳ころのレオナルドがどのようなことをしていたのかを調べてみましょう。親方であったヴェロッキオの指導のもとで制作された「キリストの洗礼」にとくに焦点をしばって、お話しします。
現代文化表現学科 12:45~13:30 2号館5階M2506教室	現代アートを読む——マルセル・デュシャンの衝撃——准教授 要 真理子 現代アートの「現代」とは、いつ頃を指していると思いますか？ 本学科の「現代アート論」という授業では、「現代」を「今を生きる私たちと同時代」と解釈し、第二次世界大戦以降から現在までの様々なアートを扱っています。戦禍を逃れてヨーロッパからアメリカへと渡った大勢の芸術家によって第二次世界大戦後、芸術の拠点はパリからニューヨークへと移動しました。今日の講義では、そのニューヨークで活躍したフランス生まれの芸術家、マルセル・デュシャンに注目します。
現代文化表現学科 13:40~14:25 2号館5階M2502教室	「夢オチ」の物語学准教授 横山 太郎 物語の最後に、それまでが誰かの夢だった、と明かされる終わり方を俗に「夢オチ」といいます。『不思議の国のアリス』のように古典として受け入れられる作品もあれば、読者に対する手ひどい裏切りとして非難される作品もあります。いずれにせよ、夢オチは物語の語り方のなかではかなり特異なもののように見えますが、実はそこには「物語」というものの本質に迫るための鍵が隠されています。この講義では、マンガや演劇などを例にあげながら、夢オチを通じて物語学(ナラトロジー)という学問の初歩に触れてもらいます。
コミュニケーション文化学科 10:55~11:40 2号館4階M2402教室	ラジオ放送の“耳のことば”で伝える ～入試の面接試験で、紙に書いた資料を配りますか～教授 小坂橋 靖夫 目で読んで伝える新聞や本と、耳で聴いて伝える放送の、長所と短所を比較してみましょう。情報の発信者がむずかしい漢語をそのまま読んで伝えと、受信者は内容がよくわからないことがあります。日本でラジオ放送が始まって92年。放送局がくふうを重ねてきた“耳のことば”を、日常生活での情報伝達に生かしましょう。講師は、NHKでアナウンサーと放送用語研究の経験があります。
コミュニケーション文化学科 13:40~14:25 2号館4階M2402教室	イメージや色彩から意味を読み解く教授 吉澤 京子 私たちが日常生活で何気なく見ているものや映像には、伝統や文化を背景としてさまざまな意味が隠されていることが多くあります。この授業では、最近話題になっているニュースや、駅などに貼られているポスター、あるいは少し昔の映像や写真などを見ながら、それらに託されている意味やメッセージを見出すヒントをお話します。そして、コミュニケーションの中で、そういった知識をどのように生かしていくとよいかについて、考えていきます。

マネジメント学部

マネジメント学科 10：55～11：40 2号館6階M2601教室	「葉っぱ」を売る？ ワクワク発想満開のマーケティングの世界	教授 細川 淳
	「マーケティング」という方法を使うと、木にはえている葉っぱまで売れちゃうの？ そのヒケツは何なのでしょう？成功したり失敗したり、そして失敗から学んだり。いまビジネスの現場で繰り広げられているイキイキとしたマーケティングの実例を通じて、「マネジメント学」の一端に触れていただきます。そしてそこから広がる「実践と研究」の世界をお話して行きます。女子大学に開設されているマネジメント学部。跡見学園女子大学でのユニークな学びの楽しさに触れてみてください。	

マネジメント学科 11：50～12：35 2号館6階M2606教室	『ソーシャルビジネスの可能性——企業の力で社会問題を解決する——』	教授 笠原 清志
	日本でも、「それぞれの社会が抱える社会問題（貧困、疾病、教育、福祉、環境等）を企業の力や参加によって解決」しようとするソーシャルビジネスの考え方が、急速に広まりつつある。従来まで、これらの問題は国や行政の社会政策として、あるいはチャリティやボランティアで対処してきたものである。今回、味の素がベトナムで実施している給食支援活動を参考にしながら、ソーシャルビジネスの可能性について検討したい。	

マネジメント学科 13：40～14：25 2号館6階M2606教室	コーヒーから始まる市民社会とアートの発展	教授 イシカワカズ
	近代的な市民社会の成熟に欠かせないのが芸術文化です。そしてそれはロンドンやパリのカフェから始まりました。ヨーロッパでコーヒーが愛され始めたことと、社会の民主化、そして芸術の発展がどのように結びついているのかを学びます。	

生活環境マネジメント学科 11：50～12：35 2号館6階M2607教室	高齢化ってなに？	講師 赤松 瑞枝
	日本では欧米よりも速いスピードで人口の高齢化が進んでいる、世界でも類を見ない超高齢社会に突入している、などという話をみなさんも聞くとお思います。しかし高齢化とはどういうことなのか分かりますか。今の皆さんと高齢者は、どこが、どのように違うのでしょうか。この授業では疑似装具を使って高齢者体験をします。そして、体・精神状態・日常生活がどのように変化するのか、それに対してどのような配慮が必要なのかを考えます。	

生活環境マネジメント学科 12：45～13：30 2号館6階M2601教室	ダイエット情報のウソ？ホント？！	教授 石渡 尚子
	雑誌やテレビでは、次々と新しいダイエット法が紹介されています。運動もせず、食べたいものを我慢せずに痩せることができるダイエットは誰にとっても魅力的です。けれども、その方法で本当に健康的に痩せることができるのでしょうか？また、痩せたとしてもリバウンドすることなくその体重を維持できるのでしょうか？講義ではさまざまなダイエット方法を検証しながら、あふれる健康情報をどう読み取ればよいのか考えます。	

観光コミュニティ学部

観光デザイン学科 10：55～11：40 2号館6階M2602教室	初めての近代化産業遺産―産業観光入門―教授 種田 明 1990年代（バブル経済崩壊後の、いわゆる「失われた10年」間）に、観光形態の主流は大きく転換しはじめました。すなわち、団体客から個人客・小グループへ、一泊2食から泊食分離へ、（大型旅館）館内囲い込みから館外（地域の魅力再発見）へ、の流れでした。新しく注目された観光形態（ニューツーリズム）は、グリーンツーリズム、エコツーリズム、フィルムツーリズム、産業観光、都市観光、スポーツ観光など、これまでの定型ではなく、成熟・多様化した旅行者が「楽しみ、体験・学習し、（地域と）交流する」持続可能（サステナブル）な観光でした。産業観光とはどんな観光か、エピソード（DVD）を交え解説します。
--	---

観光デザイン学科 13：40～14：25 2号館6階M2607教室	本当のフラダンスとは？―ハワイの観光イメージの変遷―教授 塩月 亮子 みなさんは「フラダンス」というと何を思い浮かべますか？ ゆったりとした音楽に合わせて腰を揺らしながら踊る女性たちの姿でしょうか。実は、西洋文化が入る以前のハワイの踊りは、それとはまったく違うものでした。女性ではなく男性たちが神に捧げるために踊る踊りが「フラ」でした。この授業では映像を用いて現代フラと古典フラの違いをまず学び、そのうえでフラを用いたハワイの観光イメージがどのように変化してきたのかを解説します。
--	---

コミュニティデザイン学科 11：50～12：35 2号館6階M2608教室	日本の貧困、世界の貧困を考える准教授 南里 隆宏 現在、日本では6人に1人の子どもが貧困状態にあると言われています。世界的にみても、貧困は途上国だけの問題ではなく、先進国においても貧富の格差が年々広がっています。授業では、日本や世界の貧困に関する現状を「知る」機会を提供します。そのうえで、この問題を改善するために、何ができるのか一緒に「考える」作業を行います。また、授業の後半では、フィリピンの貧困コミュニティを対象として、ゼミ生（3年生）が実施している取り組みを紹介しします。
--	---

コミュニティデザイン学科 12：45～13：30 2号館6階M2602教室	地震に自信を～被害を軽く、恵みを大きく～教授 鍵屋 一 日本列島は地震が多発する大地動乱の時代を迎えています。南関東は1923年の関東大震災から大きな地震は発生していませんが、いつ起こっても不思議ではありません。社会は、みなさんは、どのような備えをしなければならないのでしょうか。災害は、正しく恐れ、正しく備えることによって、被害を少なくできます。一方で、地震や火山災害は大地の恵みをもたらします。美しい景色、気持ち良い温泉は恵みの証です。授業の後半では、大学生が豊かな自然の中で地域の魅力発見のフィールドワークをする様子を紹介しします。
--	--

心理学部

臨床心理学科 11：50～12：35 2号館5階M2501教室	「臨床心理士」と「公認心理師」教授 野島 一彦 複雑化・多様化した心の問題に心理学の知識と技術を用いて援助していく代表的な高度専門職を2つ紹介する。1つは民間資格である「臨床心理士」、もう1つは国家資格である「公認心理師」である。それらの資格について、資格成立の経緯、職務内容、活躍の場、学習内容、資格試験等について詳しく説明するとともに、2つの特長について比較も行。また高度専門職を目指そうとする人たちへのメッセージも伝える。
--	---

臨床心理学科 12：45～13：30 2号館4階M2401教室	「聴く」が持つ不思議な力教授 宮崎 圭子 「聴く」が持っている力とは？ 実は、我々臨床家（カウンセラー）にとってこの「聴く」は基本中の基本として、繰り返し説かれます。そして、我々臨床家達は日々の実践の中で「聴く」ことに集中します。では、「聴く」にはどのような臨床的な力があるのでしょうか？ 授業ではそれをレクチャーします。「聴く」に関して、非常に著名な作家が文学作品の一つにしています。それも味わってもらいます。臨床心理学ワールドを少し理解できるでしょう。お楽しみあれ！
--	--